



教育の力は秋田の力 自信を持って積極的な行動を!

[秋田市観光クチコミ大使]
NPO法人教育情報プロジェクト 代表 大釜茂璋氏

大学を卒業して旺文社に入社した。旺文社は青少年を対象にした教育出版社として知られる。

当時、社長は赤尾好夫氏。射撃では日本代表として世界選手権に出場するほどの腕だった。物事にはシビアで、けじめをつける判断と行動は生来の理想主義者だった。出版を初め放送事業、通信教育等を通じ教育事業に情熱を捧げた人だった。

社員の前でよく遣う言葉があった。ギリシャの哲学者アリストテレスの言葉である。学問の中心地だったアテネのアカデミアで、各地から集まってくる俊才たちにアリストテレスはよく語りかけたと言う。「汝の国の青年を語れ。汝の国の将来をト(ほく)せん」と。あなたの国の青少年たちはどんな若者かお話しください。それを聞いて私が、あなたの国の将来はどういう国になるかを占ってさしあげましょう。若者の姿、行動を見ればその国の将来がわかる。

8年連続トップクラスの全国学力調査

27年度の全国学力調査結果が発表された。秋田県は今年度も、小中ともに全国のトップクラスを維持した。調査を開始した平成19年度以来、連続8年間続く優秀な成績である。この調査がまだあまり知られてなかった開始当初の頃である。東京を走る電車の中吊り広告が乗客の目を引いた。全国的に学習塾を展開する某企業の広告だった。

「秋田に学べ!」 そのコピーは、普段から秋田人を声高に標榜する私にしても、これは何事かと訝ったものだ。聞くと秋田県の小中学生の成績が全国のトップクラス。それも他地域を圧倒しているという。これには驚いた。凄いことだ。

びっくりしながらも強烈に私の頭を過ったのが、初めに紹介した、赤尾社長が社員に語りかけていたあの言葉だった。勤勉で優秀な若者を抱える地は、将来必ず榮える要素を持っていると。今やこの国において、その地こそわが秋田ではないか。山梨県の民謡にもあるように「人は石垣、人は城」



研修会には大勢の参加があった

だ。榮える基盤は人にある。それも若者であるところに、秋田県の将来には大いなる可能性を見出すことが出来る。

東京で秋田教育分析のシンポジウム

そこで私が関係している社団法人の理事会で、秋田の教育に学ぶ「教育シンポジウム」を提案し、開催した。「秋田教育の分析」「秋田県の教育施策から何を学ぶか」いろいろな角度から分析する秋田教育の検証は、人々の強い関心を呼んだ。開催日は教育への意識が大いに盛り上がる1月、秋田大学教育文化学部教授阿部昇先生、当時の大仙市教育長三浦憲一先生、東成瀬村教育長鶴飼孝先生を初め学校現場からも先生方を講師にお招きして、東京で開催したものである。これは好評だった。以後今年1月まで4年連続で開催している。「教育は百年の計」と言われるが、現在の秋田の成果も一朝一夕に成り立ったものではない。営々と築いてきた秋田教育の成果であろう。

シンポジウムには東京は勿論、関東近県、京都、大阪、九州など、かなりの遠方からも関係者が駆けつけ、秋田の教育を熱心に検証した。

教育は国の礎。教育をベースにした地盤づくりは、秋田において着実である。高齢化何するものぞ。今こそ秋田県人、自信を持って行動しよう。

■略歴

- 1936年 大仙市四ツ屋生まれ
- 1954年 秋田高校卒業
- 1959年 中央大学法学部卒業
- 1960年 株式会社旺文社雑誌編集部
- 1993年 (財)日本英語検定協会専務理事・事務局長
- 2001年 兼任 (財)日本生涯学習研究所理事長
- 2003年 NPO法人教育情報プロジェクト代表
(平成19年より首都圏大曲会会長)